

こころの玉手箱 6月号



逃した「完全試合」

審判の誤審によって完全試合を逃してしまったメジャーリーガー。悔しさをこらえて審判にかけた言葉は、責めたり非難したりするものではなく「誰も完璧ではない」というものでした。自分が強く希望していたことが、誰かのミスによって達成されなかったとき、人は厳しく叱責してしまいがちです。そんな時にこそ、出てくる言葉や態度が大切なのではないかと、ということを考えました。



☆ 1年生 ☆

- ☆ 誤審が起これば僕なら怒っていると思うのに、完全試合を逃しても「人間だから・・・」と言って人のせいにはせずに、自分をもっと磨こうと判断した投手を見習って総体に臨みたいです。
- ☆ 誤審があっても記録が間違っているけど、審判を責めずに前を向いているのはかっこいいと思います。私も何か失敗したときは誰かを責めたり人のせいにしたりせずにしていきたいです。
- ☆ 人間は相手のせいで何か起こってしまったら責めてしまうけど、責めるのではなく慰めていてすごいです。技術と態度が一流で、そこで初めて一流になると思いました。
- ☆ この話を聞いて、怒ってもいいのに、審判を責めることなく「人は誰でも間違いをする」と言っていて、この人みたいに何が起きても人のせいにするのではなく、冷静に落ち着いた行動や発言をしていきたいです。

☆ 2年生 ☆

- ☆ 以前自分も審判のミスで相手の点になり、少し不満を持っていたけど、この話を聞いてすぐに前を向いて行かなければならないと思いました。また、誰かの失敗を責めたり、不満を持ったりしないようにしたいです。
- ☆ 審判を責めるのではなく、もう一度認められることをするというのがすごいと思いました。水泳でも違反があればどれだけ良い記録であってもなくなります。私なら、そこでネガティブになってしまうと思います。一度、認められるように踏み切りたいです。
- ☆ 人は完璧ではないと言葉を返して、決して怒りを見せないところがすごいと思った。常に前へ向かって全力を尽くしていこうとも思った。怒りを見せないようにしたい。
- ☆ 確かに相手が間違っていた時に少し腹が立つこともあるけど、そんなことばかり考えるのではなく、常に前を向いて、ダメならもっと全力で取り組む前向きな気持ちが大事だと思いました。

☆ 3年生 ☆

- ☆ ミスの1つや2つは人間だからあると思う。でも、そこからどう立ち上がるかが山場だと思う。一流の人たちは、この立ち上がる時の考え方や行動が一流の人だと考えます。
- ☆ 投手はとても悔しいはずなのに、怒ることなのに前向きになるってすごいことだなと思いました。スポーツをしていたらこういう場面は多くあると思うから、見習いたいです。こういう選手ほど強くなるんだと感じました。県総体に出られるように、悔いのないように頑張りたいです。
- ☆ 人はだれしも失敗する。その失敗が自分にとって不利になること、目標が達成できないことにつながったとき、その人を許せるのか。その違いでその人の性格の善し悪しが決まるのだと思いました。
- ☆ 僕がもし同じ場面だったら、ずっと抗議していたと思います。自分のやったことを否定された気持ちになるからです。僕も今日でてきた人みたいに、人を許せる人になりたいです。

保護者の皆さんへ

お子様と意見の交換をして、感想などをお気軽にお寄せください。

-----切り取り線-----

保護者返信欄 (お子さんを通じて担任までお渡し下さい。)

逃した「完全試合」

今日からテスト発表になり、部活動はしばらく休みになりますが、7月に入ると3年生はいよいよ最後の総体、コンクールを迎えます。体育祭と同様に、卒業生の悔しい思いを肌で感じた3年生は、苦しい練習を積み重ね、自信を深めてきたことでしょう。そんなみなさんにお話ししたいと思います。

みなさんは野球における「完全試合」というのを知っていますか？フォアボールやエラーを含め、一人のランナーも出さないことです。米(アメリカ)メジャーリーグでも過去に20人しか達成してないそうです。そのメジャーリーグでの話しですが、完全試合を目前にした9回2アウトで起きたことです。投手は打者を内野ゴロに打ち取りました。誰もが大記録達成を信じたのですが、審判の判定は「セーフ」。抗議も実らず、試合は続行されました。試合後、その場면을映像で確認した審判は判定の間違いを認めたそうです。

審判は投手に謝罪しました。すると、本当は完全試合のはずなのに、間違いで完全試合ができなかった投手は何と言ったと思いますか？

「誰も完璧ではない」

歴史に残る大記録を、こともあろうに誤審で逃した。誰よりも悔しいに違いありません。しかしミスをした審判に悪意はない。審判も人間ゆえ、時々ミスをする。記録は訂正されないのなら、前を向くのが最善だとその投手は判断したのでしょうか。

スポーツに限らず人生には、誤審に遭遇することがあります。他人の評価を受ける場面などで、それは起きます。悔しい。けど逆に、今まで誤審に助けられた場面が無かったともいえない。もう覆らないのなら前を向く。気持ちの切り換え、それが一流への道なのでしょう。

サッカーW杯(日韓大会)で、誤審が相次いだことがありました。その時ドイツのGK(オリバー・カーン選手)は、こう話したそうです。

「不利な判定の1つや2つはあるだろう。それはよくあること。ゴールが認められなかったら、もう1点取る努力をするべきだ」

競技の中では何が起こるかは分かりません。特に総体はやり直しのきかない一発勝負。だからこそ、どんな状況でも最後まであきらめず、判定に不満を募らせるのではなく、常に前を向いて全力を尽くして欲しいです。3年生の皆さん、健闘を祈ります。

保護者の方からの意見

～松井秀喜のいい話～

- ・ 松井秀喜さんのような優しくておおらかで常に相手の立場を考えることのできる人間になってほしいです。どんな人に対しても敬意を持って接していくことは本当に素晴らしいことだと思います。
- ・ 松井秀喜さんやプロの人たちは好きな事に熱心に取り組み努力したと思います。練習や試合でも一球一球に集中し、ストイックに頑張っていたのだと思うので、子どもたちにもそのように頑張ってもらいたいと思います。
- ・ 松井さんのような自分の事より人への対応、人を気持ちよくさせてくれる対応、とても素晴らしいと思います。子どもにも人の気持ちを考えられる人になってほしいと思います。
- ・ 松井さんのことは全く知らなかったらしいが、いろいろな人のいろいろな経験や人生についての話を聞くことで、自分の生き方を考えられる機会となればよいと思う。

いつもたくさんのご返信をいただきありがとうございます。紙面の都合上、感想の一部のみを掲載しています。ご了承ください。

